

小坂貴志

Kosaka Takashi

失敗から学ぶ 基礎英語



CHIKUMA SHINSHO

……I made it! 「つくったよ」っていったい何を作ったの? …などと考えるはいけません。でも、なぜいけないのでしょうか。だって、何かを作るという make が動詞で目的語が it。あえて訳せば、「それを作ったよ」で、こんなに短くてかんたんそうな英語はありません。そう考えている人、危ない、危ない。

ちくま新書

285



ちくま新書

285

失敗から学ぶ基礎英語

2001年3月20日 第1刷発行

著者

小坂貴志

(こさか・たかし)

発行者

菊池明郎

発行所

株式会社 筑摩書房

東京都台東区蔵前2-5-3 郵便番号111-8755

振替00160-8-4123

装幀者

間村俊一

印刷・製本

三松堂印刷 株式会社

ちくま新書の定価はカバーに表示してあります。
ご注文・お問い合わせ、落丁本・乱丁本の交換は下記宛へ。
大宮市櫛引町2-604 筑摩書房サービスセンター

郵便番号331-8507

電話048-651-0053

© KOSAKA Takashi 2001 Printed in Japan

ISBN4-480-05885-0 C0282

ちくま新書

失敗から学ぶ基礎英語

小坂貴志
Kosaka Takashi

失敗から学ぶ基礎英語

【目次】

はじめに 009

第一章 多義語は迷いやすい 011

決定を予約する 012

60 歳には恥ずかしい 015

それは買いません 017

代金払ってよ 019

暴力が売る 021

荷物は管理できます 023

起業家精神 025

倒産する＝壊れる 028

あの女性を立たせることはできない 030

こんなやり方じゃ飛ばないよ 032

それは言えない 034

タバコの吸殻と同居 037

ラッキーだね 039

赤ちゃんが来るの 042

この仕事やりたいけど、悪いかな 044

積極的です 046

大切なことは、いちばんはじめに来る 048

彼らは何かだ 051

内側と外側を知っている 053

作ったよ 055

外を見ろ 057

歩いて外へ出よう 059

名案に打たれた 061

まだそこではない 063

私の！ 065

道路標識の話① AVENUE 068

第二章 かんたん英語で勘違い 071

どこにいましたっけ 072

次に話させて 075

私、冷え性なんです 077

下を見て話す 080

電話がコワイ 082

大至急帰ってこい 085

すぐに着きますか 088

お年玉 091

アベイラブルにいてくれ 093

1分で戻るね 096

現像しましたか 099

第三章 単語の真の意味 109

1. 脱カタカナ化の試み 110

ベテラン 113

クレーム 114

デートとプロポーズ 115

プラスチック 116

ユニーク 117

グラマーとハンサム 118

2. 基本語のイメージをつかもう 120

thing 現象 121

word 言っていること 123

line 基準 125

chance 確率 127

take マイナス作用 130

mean 本音 133

run 流れる・実施する 136

go 〜になる 140

make と let はどう違う 142

道路標識の話③ DO NOT PASS 145

第四章 冠詞と前置詞の落とし穴 147

冠詞は気にするな 148

冠詞の間違いとは 149

日本語で考えてみる 151

どこまで許容できるか 153

前置詞ひとつで意味が変わる 156

in 「中」⇒「体を包み込む」「流行り」 158

into 「中へ」⇒「ほかを忘れる」「集中する」 163

out, out of 「外」⇒「悪いニュアンス」「古い」 165

for 「～のために」⇒「心がそこに移る」 168

on 「上」⇒「ピッタリくっつく」 171

over 「超えて」⇒「わざわざ」「終わる」 175

at 「～で」⇒「点」 177

いつ忘れるの 178

while と「～しながら」 179

道路標識の話④ BUMP & DIP 185

道路標識の話⑤ QUIZ 188

はじめに

「失敗は成功のもと」。思い通りに事が運ばず、結局失敗に終わってしまう。そんなとき、ふと気づかぬうちに、自らを慰めるためにこの言葉をかけている自分がいる。

これまでの人生の中で、何度この言葉を口にし、耳にし、この言葉に励まされてきたことか。みなさんもきっと一度は、この言葉のお世話になった経験があるはずです。

本書は、英語解釈の失敗をとりあげます。それを単なる失敗として聞き流すのではなく、失敗例をもとに、英語の言葉の真の意味を探り出していきます。

失敗から学び、失敗を恐れない。さらに、失敗を教え、自らも失敗を経験する。英語を学ぶ人だけではなく、教える側にとっても、これからの時代に求められる学習・教育態度ではないでしょうか。

本書では、英語をインプットするときのミス、つまり、実際にコミュニケーションするうえで重要となる解釈の失敗に焦点を当てています。書き言葉ではなく、話し言葉の事例を使っているので、すぐにでも実践に応用できるでしょう。

多義語、かんたんな表現、言葉の真の意味・イメージ、冠詞、前置詞。各章の終わりにはコラムとして、道路標識をとりあげます。そのどれもが、見かけはかんたんで短いけれど、実はあなどれないものばかりです。

日本人が犯した英語ミスに関する本は世に数多く出てい

ます。そのどれもが、日本人が英語を使うときのミスで、しかも、話の中心は英文法です。本書では、英文法の核である構造からの脱却をめざし、場面・状況をバックボーンに英語表現を考えていきます。発信型に必要なのは、文構造の理解よりも、むしろ文脈から意味をひねり出す力です。

今、しきりにこの発信型の英語が叫ばれていますが、基本的なインプットができなければ発信型も何もありません。自国の紹介ばかりしていても、相手国の話題に耳を貸せないようでは、それこそ見向きもされないでしょう。発信型だからこそ、今のうちから、ぜひ謙虚な気持ちになって、インプットと真剣に取り組みたいもの。本書が、そのための一助になれば最高です。

本書の企画から編集にいたるまで、ちくま新書編集部の鎌田理恵さんから、貴重な助言をいただきました。この場をお借りして御礼を申し上げます。また、私にとってこのうえない執筆の原動力となったのは、息子の哲平からの、妻の洋子からの激励でした。ありがとう。

そして、何よりも、本書を手にしていただいた読者のみなさんには感謝の気持ちでいっぱいです。どうか本書が、今日からみなさんのお役に立ちますようお願いしてやみません。

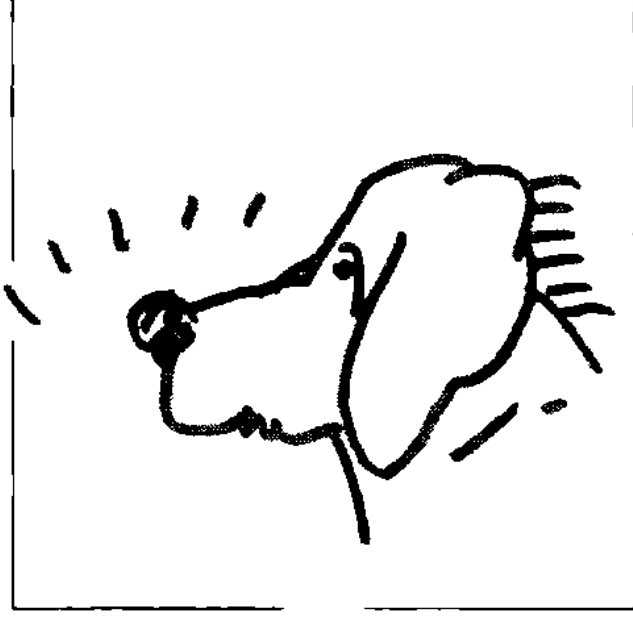
では、失敗を恐れず、いっしょにがんばりましょう。
「失敗英語は成功のもと！」

2001 年春

小坂 貴志

第一章

多義語は迷いやすい



●決定を予約する

多義語は曲者です。かんたんに見える多義語ほど、わなが隠されています。多義語でつまづかないためにも、意味を幅広く考えるくせをつけましょう。

休みの計画につきものなのが、予約です。国内旅行よりも海外旅行が格安で、しかもさらに旅行気分にあぐらをかかれる。修学旅行も海外が流行りだとか。とにかく、世界が地球村になってきていることだけは確かでしょう。

さて、予約の英語では、よく *make a reservation* を使いますね。ホテルだったら、

Can I make a room reservation?

部屋の予約をしたいのですが。

レストランだったら、単に、

Can I make a reservation?

予約をしたいのですが。

これが動詞に転じて、

reserve a room

部屋の予約をする

reserve a table

テーブルの予約をする

などとも言います。ちなみに医者などの予約には、*make an appointment* を使います。日本では、通院に予約を入れないのが普通なので、不思議に思われるかもしれません。

さて、この *reserve* という動詞。何も「予約する」だけではありません。その奥底に秘められている意味として「とっておく」「控える」などがあります。

ある人が何かを決めかねているとしましょう。そんなときには、

I reserve judgment.

と言います。この発言を聞いて、つい「決定を予約する、って何だ？」と誤解しがちですが、ここでは、決定をとっておく、つまり、

決定せずにおく。

の意味になります。別の言い方に、

I delay final judgment.

最終決定を先延ばしにする。

もあります。この表現を見ると、I reserve judgment.の意味がよくわかるのではないのでしょうか。

I have *reservations* about your plan.

その計画には、懸念を感じる。

もう少し悪いニュアンスになると、「懸念」の意味になります。

●60 歳には恥ずかしい

ところで、みなさんはよく恥ずかしがり屋の人を指して、

? He is shy.

彼は恥ずかしがり屋です。

などと言いませんか。たとえば、英語で何か意見を求められた。でも恥ずかしくて何も答えられない。そんなとき、ついその人のことを shy だ、などと言ってしまいます。しかしこの形容詞はあまり好感度が高くない言葉なので、こんなときには、ぜひ、

He is *reserved*.

彼は、控えめな性格をしています。

という表現を覚えておきましょう。感情や意見をとっておく、言い換えれば、外にださない、つまり控えめな性格だ、ということになります。

さて、shy がでてきたついでに、形容詞 shy について少し考えてみたいと思います。通常は、恥ずかしい、という意味でしか使わない shy ですが、こんな風にも使えます。